

### 【砕石との摩擦特性】

砕石層（0-40）に挟まれた構造を特徴とすることから、ジオシンセティックと砕石の摩擦特性を明らかにする。

引抜き力は、ジオシンセティックに必要とされる引張強度より、敷設したジオシンセティック敷設長における摩擦抵抗力の方が大きいことにて照査する。

$$L_e = \frac{F_s T_{req}}{2(C_p + \sigma_v \tan \phi)} \quad (1)$$

- ここに、 $F_s$  : ジオシンセティックの引抜きに対する安全率 [=2.0]  
 $T_{req}$  : ジオシンセティックに作用する引張り力 (kN/m)  
 $C_p$  :  $\tau_{pmax} \sim \sigma$  関係の近似直線の  $\tau$  軸切片 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $\sigma_v$  : ジオシンセティックと土との接触面での鉛直応力 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $\phi$  : 砕石のせん断抵抗角 (°)

ジオシンセティック敷設長における摩擦抵抗力が、必要とされる引張強度より小さい場合は、

- ① 複数のジオシンセティックの敷設
  - ② ジオシンセティックの表面にまさ土等敷設
  - ③ 十分な摩擦を有するジオシンセティックの採用
- など、対策しなくてはならない。